（公社）日本都市計画学会関西支部　2022 年度　第１回フィールドワーク

鉄道高架下利用で新たなまちづくりを実践！

～TauT（トート）阪急洛西口に学ぶ～

■趣旨

阪急電鉄京都線の洛西口駅周辺では、連続立体交差化事業で生み出された高架下空間を活用した周辺地域活性化プロジェクトが展開されています。「TauT（トート）阪急洛西口」と名付けられたこのプロジェクトでは、高架下の空間整備を契機に、鉄道事業者が行政や地域と連携し、周辺エリアの価値向上や活性化をめざし、まちの魅力を高めていこうとしています。今回、「行きたい 住みたい KYOTO 洛西口 ～ヒトとヒトをつなぐエキはマチの縁側」をコンセプトに掲げ、2021 年関西まちづくり賞を受賞したこの取り組みについて、現地で学ぶフィールドワークを開催しました。

■開催要領

◇日　時：2022 年 7 月２０日（水）15：00～17：00

◇場　所：阪急洛西口 TauT（京都市交流促進まちづくりプラザ）

◇参加者：一般２６人、企画委員８人

◇内　容：

・講演「鉄道高架下を利用したまちづくりプロジェクト TauT（トート）阪急洛西口」

・フィールドワーク　阪急洛西口 TauT

■開催概要

◇講演「鉄道高架下を利用したまちづくりプロジェクト TauT（トート）阪急洛西口」

阪急電鉄株式会社　えきまち事業部　永田　賢司氏

○基本情報

・阪急洛西口駅　2003 年開業、乗降客数※約 1.3 万人/日（阪急電鉄８６駅中６０位）※2019 年平均

・駅東側には自衛隊駐屯地や府下最大級のイオンモール京都桂川（2014 年開業）、西側には竹林を拓いた洛西ニュータウンがあり、ここ５０年くらいで住宅開発されたエリア。

〇経緯

・阪急京都線洛西口駅付近の連続立体交差化事業により、２０１５年に高架空間が誕生。

・２０１５年１２月、京都市と阪急電鉄間で西京区エリアの活性化を目的とした包括連携協定を締結。

・高架下の敷地は鉄道事業者敷地なので高架下の整備は阪急電鉄で実施するが、連立事業の規定として、約１５％の土地を行政（京都市）に公租公課相当で貸与することとなっている。

・洛西口駅は不動産事業として実施するには大中サイズの駅と比較して収益規模が小さく、通常であれば駐車場や倉庫などの用途として活用される規模。

・しかし、このエリアにとって本当にそれでいいのかということで鉄道事業を核とする都市交通事業本部内の「流通事業部門」でプロジェクトチームを結成、エリアの価値を高めるという目的で事業を実施することとなった。

〇事業方針

・コンセプトは「行きたい　住みたい　KYOTO 洛西口　～ヒトとヒトをつなぐエキはマチの縁側」

・「TauT」という名称は３つほど案を作って地域の方にも投票してもらい、名前を付けるところから参画してもらった。

・取り組み方針を大事にしており「まちの多様な主体による協働量の最大化」。外部に丸投げではなく、地元企業と連携したり、連携した企業同士で連携してもらったり、なるべく協働量を増やすようにしている。ハード整備だけでなくコミュニティづくりを情報発信して伝えていく、発信することで賛同してくれる人が集まるということを大事にしている。

・ハード整備においては、落ち着きのある外観、”つながり”のデザイン。周辺が住宅街なので落ち着いた照明計画としている。

・テナントは京都の地元テナントを重視。配置計画は駅に近いエリアは収益性を重視しつつ日常利用の物販、飲食、サービスで構成。一方で、休憩利用やイベントなどによる賑わいを期待してオープンスペース（エントランススペース）を配置。

・その北側（桂駅側）は子育て支援や市民交流、スポーツ、趣味、学びのエリア。さらに北側にはチャレンジショップ、シェアオフィス、コワーキング、オープンスペースを配置、事業的には赤字のコンテンツもあるがクリエイティブな人に関わってもらうことでさらに豊かな地域連携が進むことを期待している。

〇事業内容

①野菜マルシェ「西山の恵み」

地域ＮＰＯが主催する野菜マルシェ。ＮＰＯが地域の農家から仕入れて販売

②花壇の植栽、販売実習
農業系学科を有する地域の高等学校との連携事業。
③地域案内マップ、シェアサイクル
地域のフリーペーパー発行企業と連携して異なるテーマの地域案内マップを５か所設置。サイクルベースあさひとの連携によりシェアサイクルポートを２か所設置。
④セミナー・交流型イベント「洛西高架下大学」
２～３か月に１回、まちづくり系のセミナーなどを開催。プレイヤーになり得る人とのつながりづくりが狙い。
⑤洛西高架下大学「研究室コース」
地域ＮＰＯに講師を依頼。半期単位のプログラムで、最終的に TauT でイベントを開催する実践型。
⑥洛西高架下サークル
趣味活動のサポート。現在５個くらいのサークルが活動している。
⑦ボランティア組織「まちづくり隊」
清掃や「トートひろば」の受付・管理、花壇の世話など

その他イベント
トートの庭、トートの運動会（トレラン、体操、卓球、カルチャー教室など習い事系テナントの体験会)、ジャパンコーヒーフェスティバル

〇まとめ
・イベント出展者や活動に関わった人など、関係人口は延べ 1,000 人/年
・高架下の通行人数は１期開業時（2018 年度）比で約 130％

◇質疑応答
Q:地域 NPO というのはどういった団体？
A:すべて同じ一つの団体。洛西ニュータウン出身の方が地元の寂れ具合を憂いて、盛り上げようと立ち上げたもの。連携当時、すでに区から業務を受けるくらいのノウハウがあった。
この NPO がいるからこそできている面が大きく、同じことを沿線で展開できるかというとそういうわけではない。

Q:京都市とは包括連携協定を締結されているが、向日市との連携は？
Ａ:洛西口のすぐ南側から向日市だが、連立事業が京都市の事業であるため、あまり関与はない。ただ、駅周辺の向日市域ではマンション建設等により人口が増えている。

Q:沿線で他にはどのようなことを考えられているのか。
A:まさにこれをどう沿線全体に展開していくかが課題。遊休地の活用などが考えられる。地元のキープレイヤーがいないとできないため、場所ではなく人ありきで考えてもいいかと思う。

Q:高架下における建築の制限で困ったことは
A:そこまで制限は感じなかった。２階建てにすると階高が低くなるし、元々２階建てにするつもりもなかった。むしろ不燃性など高架下における社内の内規のほうが厳しかった。
高架の柱と一体化しているように見えるが、完全に縁を切っている。

Q:不燃性に関して内規が厳しいということだが、火を使うキッチンカーは問題なかったのか
A:一台ごとに行政の営業許可を得ていることもあるが、そこに関しては別途安全管理を行っている。

Q:イベントはすべて自前で誘致しているのか
A:プランナーに依頼しているものもある。

◇フィールドワーク
ご説明：エキ・リテール・サービス阪急阪神　三浦氏、小川氏

エントランススペース付近（桂駅方向）

２班のフィールドワークの様子

エントランススペース

トートひろば

市の横断管理施設区域

探求マップ

洛西高架下サークル「ひまわり部」

全体集合写真（１班、２班）

※感染症予防に留意して、写真撮影の時のみ無言でマスクを外しています。